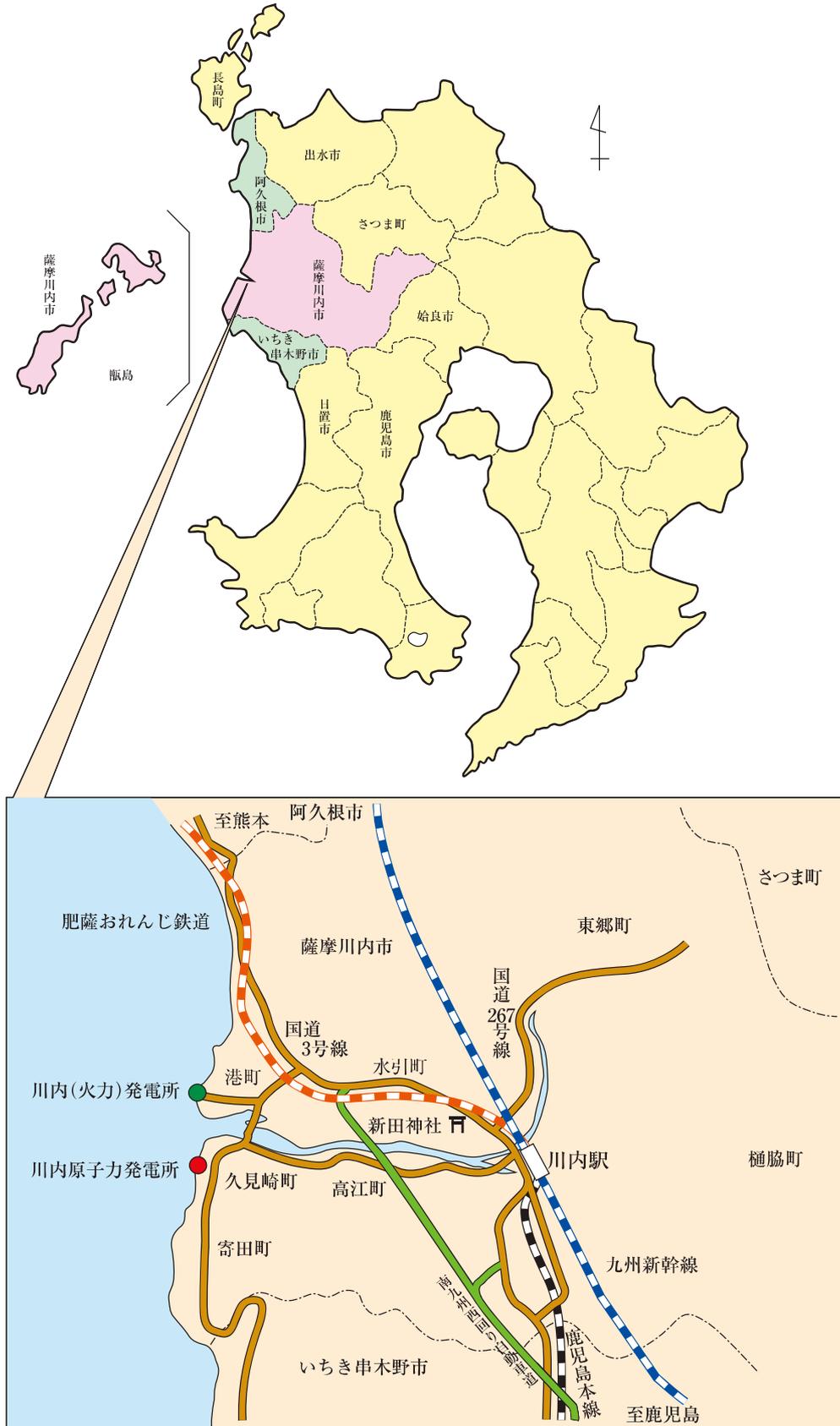
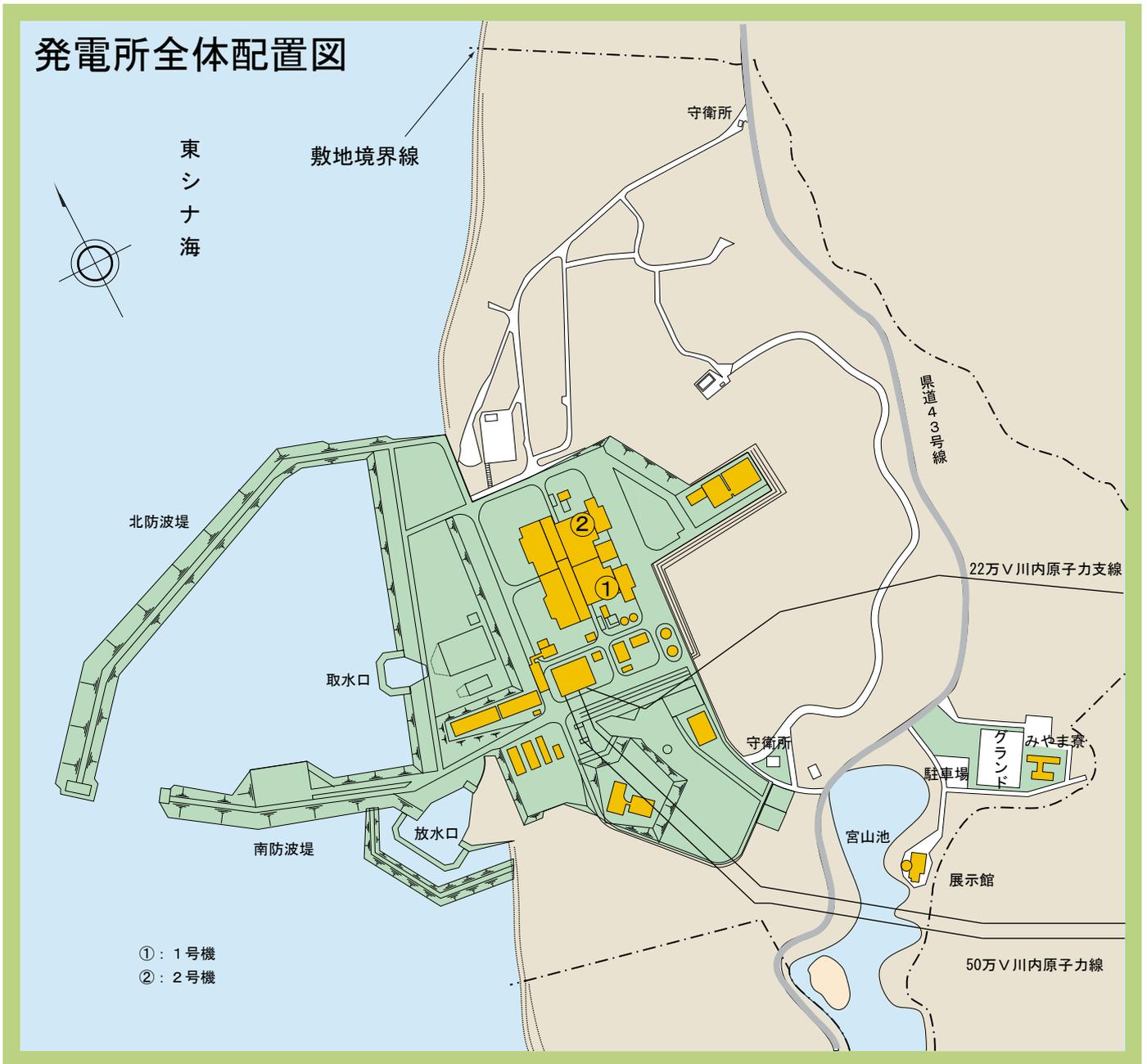


Ⅲ 参 考 資 料

Ⅲ－1 川内原子力発電所位置図



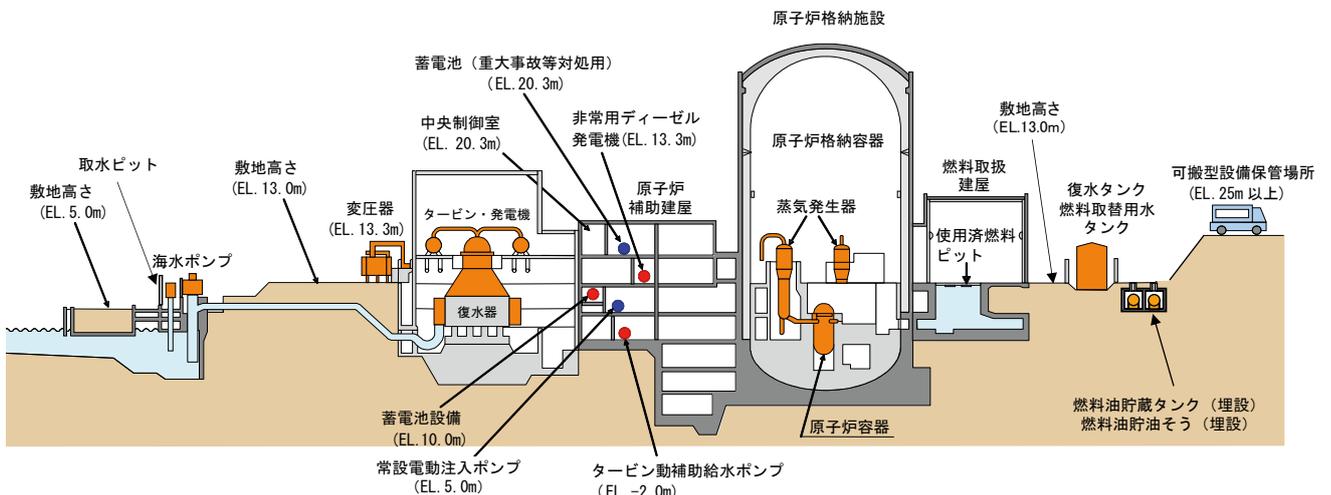
< 発電所全体配置図 >



※県道43号線は敷地外

< 発電所断面図 >

【イメージ】



Ⅲ－２ 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項目		ユニット	
		1号機	2号機
所在地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷地面積		約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）	
電気出力		89万kW	89万kW
原子炉	型式	加圧水型軽水炉（PWR）	
	熱出力	266万kW	266万kW
燃料	種別	低濃縮（約4.1%，約4.8%）二酸化ウラン	
	装荷量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m ³ /s	約64m ³ /s
主要経緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	—
	建設計画発表	昭和45年 4月21日	昭和52年 3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年 3月12日 （第68回）	昭和53年 7月14日 （第75回）
	原子炉設置許可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年 1月24日	昭和56年 5月 7日
	安全協定調印	昭和57年 6月12日	
	初臨界	昭和58年 8月25日	昭和60年 3月18日
	初送電	昭和58年 9月16日	昭和60年 4月 5日
	営業運転開始	昭和59年 7月 4日	昭和60年11月28日
建設費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ－３ 原子力防災訓練当日のコメント（ぶらさがり取材）

1 知事

本日は、原子力防災訓練を薩摩川内市など関係市町、そして国などの関係機関、住民の方々が参加して実施しました。

原子力については、県民の安心・安全が一番大事であり、防災対策の充実・強化に取り組んでいるところです。

今回の訓練も、210の関係機関と5千名の方が参加するなど、昨年同様、最大規模の訓練を行いました。

また、昨年、専門委員会の皆さんに視察いただいて、その際に出た意見がたくさんありましたので、それを今回新たに訓練として追加したほか、一部拡充して行いました。

その中には、離島からの大型自衛隊ヘリによる搬送訓練、そして離島からの避難訓練など様々なものを今回初めて取り組みました。

しかしながら、防災訓練、防災対策に終わりということはありません。

今回も専門委員会の皆さんに視察していただいたので、様々な意見が出されることになるのではないかと考えています。

そして今回は、新たに第三者機関に評価・検証を行っていただくことにしました。専門委員会、第三者機関などから様々な意見、課題、改善点をくださるのではと思っています。

そういった課題、改善点を踏まえ、避難計画の見直し、来年度の防災訓練に活かすことが大事だと思っています。

防災対策の充実・強化に更に取り組んでいきたいと思っています。

2 佐藤 暁 内閣府大臣官房審議官（原子力災害対策現地本部長）

全国の原子力防災訓練を見てきていますが、本日の訓練は、発災から終了まで多くの要素的な訓練が含まれており、手順についても、遅れること、混乱することなく進行していました。段取りがしっかり確認できたという意味でもいい訓練になったと感じています。